A-2

チュヴァシ語における数量詞句と定形動詞の一致[1]

菱山 湧人
（新潟大学／日本学術振興会）

要旨

チュヴァシ語（チュルク諸語オグル語群）の定形節では、主語名詞句と定形動詞の間で人称・数の一致が起こる。主語が 3 人称である場合の数の一致に着目すると、主語が複数形の名詞句である場合はほぼ義務的に複数一致が起こる。主語が単数形の名詞句である場合は基本的に単数一致が起こるものの、数量詞句（例：*temiśe śĭn*「数人」）が主語の場合は複数一致が起こる場合もある。上層言語であるロシア語の類似現象は研究されているが、チュヴァシ語のこの現象は未だに研究されていない。

本研究ではまず、コーパスを用いた定量的調査の結果に基づき、数量詞句と定形動詞の一致には指示対象の個別性が影響している（一つの集合として意識されやすいほど単数一致の頻度が高く、個々として意識されやすいほど複数一致の頻度が高い）ことを示す。次に同系のトルコ語と対照し、チュヴァシ語の特徴が、個別性の影響が単数名詞句である数量詞句との一致で見られるという点にあることを示す。最後にロシア語の類似現象と対照し、数詞の意味論的な数が大きいほど単数一致の頻度が高い傾向が見られる点で類似していることを示す。

0. はじめに

チュヴァシ語の定形節では数量詞句が主語の場合、定形動詞が単数形になることも複数形になることもある (1, 2)。本発表では、数量詞句が主語の定形節における一致の種類に影響を与える要因が、指示対象の個別性であることを示す。

(1) *pĕr kunt=ax* ***ikĕ uyav*** *pul-atčĕ*
one this.LOC=EMPH two festival be-PST.PROG.**3SG**
「ここだけで 2 つの祭りが行われていた。」

(2) *śak* ***ike uyav*** *pĕr+pĕr-i-nčen* *kăšt* *uyrăl-sa* *tăr-aśśĕ*
this two festival one+one-3.POSS-ABL a.little vary-CVB.SEQ stand-PRS.**3PL**
「この 2 つの祭りは互いに少し異なっている。」

本発表の構成は次の通りである。まず第 1 節で先行研究の記述をまとめる。次に第 2 節で調査方法と調査結果・分析を挙げ、第 3 節で考察を行う。最後に第 4 節で今後の課題を挙げる。

なお、特にことわりのない限り外国語文献の翻訳、例文・表番号、ラテン文字転写[2]、グロス、日本語訳、文字飾り等[3]は発表者による。

---

[1] 本研究は JSPS 科研費（研究課題 23KJ1014）の助成を受けている。

[2] 例文中の、ロシア語の音韻体系に従って発音される比較的新しいロシア語からの借用語のラテン文字転写は Timberlake (2004: 25) にある linguistic 方式に従う。

[3] 例文中で主語名詞句は下線で、数量詞句は太字で、定形動詞は二重下線で、定形動詞の数を表わすグロスは太字で示す。

1. 先行研究

本節では、1.1 節でチュヴァシ語における主語と定形動詞の一致について、1.2 節でロシア語における類似現象についての先行研究の記述をまとめる。

1.1. チュヴァシ語における主語と定形動詞の一致

チュヴァシ語では定形動詞のみが主語と人称・数の一致を起こす。Andreev (1966: 60) は、「他のチュルク諸語に特徴的な名詞類述語における人称標識はチュヴァシ語には存在しない」と述べ、名詞述語文の例（*epĕ inžener* [1SG engineer]「私はエンジニアだ」）と形容詞述語文の例（*esĕ śamrăk* [2SG young]「君は若い」）を挙げている。Krueger (1961: 184) は、「チュヴァシ語における一致は、主語の人称・数と一致する動詞に限られる」と述べ、動詞述語文の例（*epĕ věren-et-ĕp* [1SG study-PRS-1SG]「私は学ぶ」、*epir věren-et-pĕr* [1PL study-PRS-1PL]「私たちは学ぶ」）を挙げている。

3 人称主語と定形動詞の間の数の一致に着目すると、主語が複数形の名詞句である場合はほぼ義務的に複数一致が起こる。風間・菱山 (2020: 587) は、「基本的にどの定動詞の形でも 3 人称単数と 3 人称複数の形の間に対立があるという点で一般チュルクと大きく異なっている」、「3 人称複数主語に対しては 3 人称複数の述語が義務的に用いられる点でも異なっている」と記述している。例えばトルコ語（南西語群）では、3 人称複数主語が不定の場合や動かない無生物の場合は複数一致が起きない (Göksel and Kerslake 2003: 118)。一方チュヴァシ語では、3 人称複数主語が不定の動かない無生物であっても、(3) のように複数一致が起きる[4]。この点でチュヴァシ語は、上層言語のロシア語や近隣のウラル語（マリ語、ウドムルト語）とより類似している。

(3) *sĕtel* *śinče* ***xaśat+žurnal-sem*** *vïrt-aśśĕ*
table upside.3.POSS.LOC newspaper+journal-PL lie-PRS.**3PL**
「テーブルの上には新聞・雑誌が置いてある。」

主語が単数形の名詞句である場合は基本的に単数一致が起こるが、部分構造や数量詞句が主語の場合は複数一致が起こる場合もある。部分構造は菱山 (2023) で扱った。本研究では数量詞句を扱う。

1.2. ロシア語における類似現象

秋山 (2011: 24) は現代ロシア語の数詞句を主部に含む文で、述語は非過去時制で 3 人称単数・3 人称複数、過去時制で中性単数・複数のヴァリアントを持つことが知られていると述べ、以下の例を挙げている。

(4) *rabotajut/rabotajet* ***sto čelovek***
work.IMPV.PRS.**3PL**/work.IPFV.PRS.**3SG** hundred.NOM people.M.PL.GEN
「100 人が働いている。」(秋山 2011: 24)

[4] ただし、Pavlov (2017: 236-237) によると、**古い民話や民話でまれに**主語が複数形であるにも関わらず 3 人称単数形の動詞述語が観察される（例：***ïră śĭn-sem*** *vil-et – yat yul-at'* [good person-PL die-PRS.**3SG** name remain-PRS.3SG]「良い人たちが死ぬと名前が残る」）。この場合主語は、分割できない集合的な複数性を表わすという。

秋山 (2011) はこのような一致の揺れをコーパスデータを用いて計量的に分析し、その要因について統計学的検定を用いて整理し、その要因間の影響度について多変量解析を用いて回帰分析を行った。以下に分析結果から、チュヴァシ語と対照可能なカテゴリーのみを抜粋した表 1 を挙げる。

表 1：現代ロシア語におけるカテゴリー別述語の単数形・複数形選択の傾向

統語論	主語と述語の語順	主–述の語順	単数＜複数
		述–主の語順	単数＞複数
		主 1–述–主 2 の語順	単数＞複数
意味論	数詞の意味論的数の大小[5]	*dva, tri*	単数＜複数
		pjat', sto, tysjača, million	単数＞複数
	名詞の有生性	活動体	単数＜複数
		不活動体	単数＞複数
	概数表現の有無	概数あり	単数＞複数
		概数なし	単数＜複数

(秋山 2011: 99 をもとに発表者一部改変)

秋山 (2011: 99) によると、カテゴリーの影響度は強い順に「主語と述語の語順」＞「数詞の意味論的数の大小」＞「名詞の有生性」＞「概数表現の有無」であるという。

なお、本研究の調査で使用するコーパスの機能的制約により、2.1 節で後述するような調査方法をとったため、表 1 のカテゴリーのうち対照が可能なものは数詞の意味論的数の大小のみである。ロシア語との対照については 3 節で後述する。

2. 調査

本節では 2.1 節で調査方法、2.2 節で調査結果と分析を示す。

2.1. 調査方法

チュヴァシ語のオンラインコーパス Čăvaš čĕlxin ikčĕlxellĕ śüpśi（チュヴァシ語 2 言語コーパス）[6] を用いて、次の手順で調査を行った。

① 検索窓に数量詞＋名詞 *śĭn*「人」をキリル文字で入力して完全一致検索をする[7]。
② 総例数が 40 例以上（検索結果 2 ページ以上）かつ定形節が 10 例以上のもの（表 2）を調査対象とし、検索結果（上限 200 例ずつ）をコピーし、表計算ソフトに貼り付ける。
③ 定形節における単数一致と複数一致の頻度を目視で調べる。ロシア語の訳文または原文が付されている例文については、ロシア語文における一致の種類も確認する。

[5] 秋山 (2011: 51) は、Corbett (1978) で提案された分類方法に則り、2 を意味する数詞を *dva*「2」に、3~4 を意味する数詞を *tri*「3」に、5~99 を意味する数詞を *pjat'*「5」に、100~999 までを意味する数詞を *sto*「100」に、1,000~999,999 を意味する数詞を *tysjača*「1000」に、100 万以上を意味する数詞を *million*「100 万」に分類している。
[6] 総語数約 1602 万語（2024 年 2 月 7 日現在）のタグなしコーパス。多くの例文にはロシア語の訳文または原文が示されている。検索窓は一つのみ。2024 年 2 月現在、随時更新作業（新テキストの追加、ロシア語訳付け作業）が行われている。新聞・雑誌の記事、ニュース、散文集、宗教関連のテキストなどが含まれる。本稿で出典の明記されていない例は、本コーパスから抽出されたものである。
[7] 主要部名詞に *śĭn*「人」を選んだ理由は、軽名詞であるため用例数が多く、意味的に主語である場合が多いためである。非人間名詞や無生名詞についての調査と有生性の影響の検証は今後の課題である。

2.2. 調査結果・分析

調査・分析の結果、チュヴァシ語における数量詞句と定形動詞の一致には、指示対象の個別性が影響していることが示唆された。単数一致の頻度が低い順に上から並べた調査結果を以下の表 2 に示す（割合は小数点第 2 位を四捨五入）[8]。

表 2：調査結果

		総例数	定形節	単数一致	複数一致
viśĕ śĭn	3 人	200	71	20 (28.2)	**51 (71.8)**
temiśe śĭn	数人	200	108	39 (36.1)	**69 (63.9)**
vună śĭn	10 人	108	32	15 (46.9)	**17 (53.1)**
śirĕm śĭn	20 人	71	16	8 (50.0)	8 (50.0)
śĕr śĭn	100 人	136	34	**23 (67.6)**	11 (32.4)
miśe śĭn	何人	117	31	**28 (90.3)**	3 (9.7)
pin śĭn	1000 人	200	34	**31 (93.9)**	2 (6.1)
numay śĭn	多くの人	131	38	**36 (94.7)**	2 (5.3)
kašni śĭn	あらゆる人	200	69	**68 (98.6)**	1 (1.4)
pĕtĕm śĭn	全ての人	46	10	**10 (100)**	0 (0)

表 2 から、数量詞句の表す数量が多いほど単数一致の頻度が高い傾向が見られる。数詞を含むもの（網掛け部）を対象に、数詞の値と単数一致の頻度を相関分析した結果、相関係数は 0.87 であり、数詞の値と単数一致の割合は強い正の相関を示す[9]。数詞以外を含むものを見ても、3 人以上 10 人未満を指す *temiśe śĭn*「数人」の単数一致の割合は *viśĕ śĭn*「3 人」と *vună śĭn*「10 人」の間に位置している。*numay śĭn*「多くの人」の単数一致の割合は、*pin śĭn*「1000 人」のものと同程度に高い。単数一致の割合が最も高いのは、全員を指す *kašni śĭn*「あらゆる人」と *pĕtĕm śĭn*「全ての人」である。

上記の調査結果と分析から、数量詞句と定形動詞の一致には、指示対象の個別性が影響している（一つの集合として意識されやすいほど単数一致の頻度が高く、個々として意識されやすいほど複数一致の頻度が高い）ことが示唆される。数量詞句の表す数量が多いほど単数一致の頻度が高いのは、数量が多いほど個々を意識するのが困難で、全体が一つの集合として認識されやすいためであると考えられる。逆に、数量詞句の表す数量が少ないほど複数一致の頻度が高いのは、数量が少ないほど個々が意識されやすいためであるといえる。疑問詞を含む *miśe śĭn*「何人」は複数一致の割合が 9.7%と低いが、これは人数が分からず一人ひとりが意識されづらいためであると考えられる。

一つ一つの例も個別性に基づいて説明できる。(1) では単に祭りの数が述べられており、個々が意識されていないため単数一致が、(2) では 2 つの祭りの間の違いが問題になっており、個々が意識されているため複数一致が起こっていると考えられる。主語 *temiśe śĕr śĭn*「数百人」を共有する 2 つの定形動

---

[8] *viśĕ śĭn*「3 人」は *ikĕ viśĕ śĭn*「2~3 人」を含み、3 人以上を指すもの（*śirĕm viśĕ śĭn*「23 人」など）は含まない。*vună śĭn*「10 人」は *pĕr vună śĭn*「約 10 人」や *vună śĭn ĭtla*「10 人以上」を含み、20 人以上を指すもの（*temiśĕ vună śĭn*「数十人」）は含まない。*śirĕm śĭn*「20 人」は *pĕr śirĕm śĭn*「約 20 人」や *śirĕm śĭn ĭtla*「20 人以上」などを含み、100 人以上を指すもの（*viśśĕr śirĕm śĭn*「320 人」）は含まない。*śĕr śĭn*「100 人」は 100~900 人を指すもの（*temiśe śĕr śĭn*「数百人」、*pilek śĕr śĭn*「500 人」など）を含み、1000 人以上を指すものは含まない。*pin śĭn* は 1000~99 万 9000 人を指すもの（*ikśĕr allă pin śĭn*「25 万人」や *pilĕkśĕr pin śĭn*「50 万人」など）を含む。これらを含めた理由は、これらを除くとデータ数が大幅に少なくなり、全体的な傾向をとらえるのが困難になるためである。概数表現の影響の検証は今後の課題である。

[9] 注 8 で述べたように、*viśĕ śĭn*「3 人」は「2~3 人」、*vună śĭn*「10 人」は「約 10 人」や「10 人以上」、*śirĕm śĭn*「20 人」は「約 20 人」や「20 人以上」、*śĕr śĭn*「100 人」は「数百人」や「500 人」、*pin śĭn* は「25 万人」や「50 万人」などを含むが、便宜上それぞれ 3, 10, 20, 100, 1000 に統一して相関係数を算出した。

詞が現れている以下の (5) では、一つ目の定形動詞が 3 人称単数形であるにもかかわらず、二つ目の定形動詞は 3 人称複数形となっている。

(5) ***temiśe śĕr śĭn*** ***tăr-at'*** *zal-ta, allă čĕlxe-pe gimn* ***yurl-aśśĕ***
some hundred person stand-PRS.**3SG** hall-LOC fifty language-INST anthem sing-PRS.**3PL**
「数百人がホールに立っている、50 の言語で歌を歌っている。」

(5) は、ソ連時代にクレムリンに集まった世界中の共産主義者がインターナショナルを歌う場面を説明したものである。1 つ目の定形動詞「立っている」については、ホールに立っているのは世界中から集まった数百人の共産主義者全員であり、一つの集団として意識されているため単数一致をしているといえる。2 つ目の定形動詞「歌っている」については、それぞれの国の共産主義者がそれぞれの国の言語で歌っており、別々の集団として意識されているため複数一致をしているといえる。

ロシア語文との対応に着目すると、A. チュヴァシ語でもロシア語でも単数一致、B. チュヴァシ語でもロシア語でも複数一致、C. チュヴァシ語では単数一致、ロシア語では複数一致、D. チュヴァシ語では複数一致、ロシア語では単数一致、の 4 パターンいずれも見られた。全体的に見ると、チュヴァシ語とロシア語で同じ一致パターン (A, B) の数（171 例）の方が、チュヴァシ語とロシア語で異なる一致パターン (C, D) の数（63 例）よりも多かった[10]。

異なる一致パターン (C, D) に着目すると、顕著な違いとして、「100 人」、「1000 人」、「たくさんの人」の場合に C のパターンが合計 17 例見られたのに対し、D のパターンが 0 例であったことが挙げられる。この結果は、数量詞句の指示対象の数量が多い場合にはチュヴァシ語の方がロシア語よりも単数一致の頻度が高い傾向があることを示唆している。D のパターンは数量詞句の表す人数が少ない場合に主に見られた。以下に、C の例 (6, 7) と D の例 (8, 9) を挙げる。

(6) *vara śur sexet=te irt-m-ĕ, xamăr yalav ayne*
then half hour=ADD pass-NEG-FUT.3SG self.1PL flag bottom.3.POSS.DAT/ACC
pilĕk śĕr śĭn *tux-sa* ***tăr-ĕ***
five hundred person go.out-CVB.SEQ stand-FUT.**3SG**
「そして 30 分も過ぎないうちに我々の旗のもとに 500 人が集まるだろう。」

(7) *i čerez polčasa pod naše znamja* ***stanut*** ***pjat'sot čelovek***
and after half.hour under 1PL.N.SG.GEN flag.N.SG.ACC stand.PFV.PRS.**3PL** fifty.NOM person.M.PL.GEN
「そして 30 分後には、500 人が我々の旗の下にいることになる。」（ロシア語）

(8) *manăn payan xir-e* ***vună śĭn*** *śeś* ***kay-aśśĕ***
1SG.GEN today field-DAT/ACC ten person only go-PRS.**3PL**
「私のところでは今日畑に 10 人だけが行く。」

[10] ロシア語文は元のチュヴァシ語文が翻訳されたもの、もしくはチュヴァシ語文の原文であるため、両言語で同じ一致パターンとなったものは翻訳の影響を受けている可能性もある。

(9) *u menja v pole segodnja* ***pojdjot*** *tol'ko* ***desjat' čelovek***
on 1SG.GEN to field.N.SG.ACC today go.PFV.PRS.**3SG** only ten.NOM person.M.PL.GEN
「私のところでは畑に今日 10 人だけが行く。」（ロシア語）

3. 考察

調査では、チュヴァシ語における数量詞句と定形動詞の一致には指示対象の個別性が影響していることを示唆する結果が得られた。本節ではまず同系のトルコ語と対照してチュヴァシ語の特徴的な点を示し、次にロシア語の類似現象との対照を行う。

１）トルコ語から見たチュヴァシ語の特徴的な点

トルコ語と比べると、チュヴァシ語の特徴は、個別性の影響が単数名詞句である数量詞句との一致で見られるという点にある。Göksel and Kerslake (2003: 118) によると、トルコ語における特定の人間主語を表わす複数名詞句と述語の一致では、「指示される集合を構成する個々人の個別性」(the distinctness of the individuals constituting the set which is referred to) が述語の複数標示の有無と関係する。述語が複数標示される場合は、述語の表す動作・状態への各人の参加が同一ではなく個別化されていることを意味し、複数標示されない場合は、話者が集団の内部構成よりも出来事・状態に興味を持っていることを意味する (10)。

(10) ***Bazı arkadaş-lar-ımız*** *bu fikr-e katıl-ma-dı(-lar).*
some friend-PL-1PL.POSS this idea-DAT participate-NEG-PST(**-3PL**)
「私たちの友人の一部はこのアイデアに賛同しなかった。」(Göksel and Kerslake 2003: 118)

他方で、主語名詞句に *birkaç*「いくつかの」、*birçok*「多くの」、*kaç*「いくつ」、*her*「すべての」など、複数標示されない名詞句と共に生起する限定詞が含まれる場合、述語は複数標示されないという。

３）ロシア語の類似現象との対照

ロシア語の類似現象と対照すると、両言語で同じ一致パターンを示す例の方が異なる一致パターンを示す例よりも多く、数詞の意味論的な数が大きいほど単数一致の頻度が高い傾向が見られる点でも類似している。同系のトルコ語に比べて上層言語のロシア語とより類似していることから、この類似は言語接触によるものである可能性も考えられる。ただしロシア語について秋山 (2011: 52-53) は、「全体的な印象として数詞の持つ意味論的な数が大きいほど、述語の複数形の比率が高くなる傾向はある」[11]としつつも、*tysjača*「1000」に含まれる数量詞を主部に持つ文では *sto*「100」および *million*「100 万」に含まれる数量詞を持つ文よりも単数形の割合が低いことから、「その傾向は単純なものではない」と述べている。

これに関連して両言語で異なる点としては、数量詞句の表す数量が多い場合にはチュヴァシ語の方がロシア語よりも単数一致の頻度が高い傾向が見られることが挙げられる。データの質が異なるため単純に比較はできないものの、秋山 (2011: 52) のデータを見ても、*sto*「100」に分類される数詞を含む場合

[11] 引用文中の「複数形」は「単数形」の誤記だと思われる。

の単数一致の割合は 71.4%でチュヴァシ語の 67.6%と大差ないが、*tysjača*「1000」の場合は 61.3%でチュヴァシ語の 93.9%の方が大幅に高い。

4. 今後の課題

本研究では名詞 *śïn*「人」を主要部とする数量詞句のみを調査対象とした。今後は非人間名詞や無生名詞についても調査し、有生性の影響を検証する必要がある。主語と述語の語順や概数表現の影響の検証も今後の課題である。これらを行った上で、改めてロシア語の調査結果と対照し、両言語の類似点と相違点を詳細に明らかにすることが必要である。

略号一覧

1, 2, 3		1, 2, 3 人称	NEG	negative	否定
ABL	ablative	奪格	NOM	nominative	主格
ACC	accusative	対格	PFV	perfective	完了体
ADD	additive	累加	PL	plural	複数
DAT	dative	与格	POSS	possessive	所有
EMPH	emphasis	強調	PROG	progressive	進行
FUT	future	未来	PRS	present	現在
GEN	genitive	属格	PST	past	過去
INST	instrumental	具格	SEQ	sequential	継起
IPFV	imperfective	不完了体	SG	singular	単数
LOC	locative	位格	-		接辞境界
M	masculine	男性	=		接語境界
N	neuter	中性	+		複合語境界

参考文献

秋山真一 (2011)「ロシア語の一致・不一致についての共時的・通時的研究」博士論文. 東京外国語大学.

Andreev, I. A. (1961) *Pričastie v čuvašskom jazyke*. Čeboksary: Čuvašskoe gosudarstvennoe izdatel'stvo.

Corbett, G. G. (1978) Universals in the syntax of cardinal numerals. *Lingua* 46. 355-368.

Corbett, G. G. (2006) *Agreement*. Cambridge: Cambridge University Press.

Göksel, A. and C. Kerslake (2005) *Turkish A Comprehensive Grammar.* London, New York: Routledge.

菱山湧人 (2023)「チュヴァシ語における部分構造 : 格標示と数の一致」『日本言語学会第 167 回大会予稿集』261-297.

風間伸次郎・菱山湧人 (2020)『チュヴァシュの言語と文化 1』東京: 東京外国語大学.

Krueger, J. (1961) *Chuvash Manual. Introduction, Grammar, Reader, and Vocabulary*. *Indiana University Publications, Uralic and Altaic Series 7*. The Hague: Mouton.

Pavlov, I. P. (2017) *Sovremennyj Čuvašskij jazyk: monografija: v 2 tomax. Tom 2: Morfologija*. Čeboksary: Čuvašskij gosudarstvennyj institut gumanitarnyx nauk.

Timberlake, A. (2004) *A reference grammar of Russian*. Cambridge: Cambridge University Press.

調査資料

Čăvaš čĕlxin ikčĕlxellĕ śüpśi［チュヴァシ語 2 言語コーパス］(http://corpus.chv.su/) [最終閲覧日: 2024/2/7]